

「緑区の暮らしの中の意思決定支援と地域づくり」研修会報告

平成 28 年 12 月 5 日 主催/緑区自立支援連絡協議会

第 3 回支援者向け研修会開催

平成 28 年 12 月 5 日（月） 緑保健所において、「緑区の暮らしの中の意思決定支援と地域づくり」研修会を開催。緑区のヘルパー事業所、グループホーム、入所施設、日中活動事業所、放課後等デイサービス、相談支援事業所、社会福祉協議会、行政の職員約 50 名が集まりました。今回の研修は、「障害当事者の意思決定支援を大切にし、その人らしく選べる地域生活の実現のためには、地域でどのように取り組んだらよいか。どうしたら地域生活が充実していくのか。地域や支援の課題を整理し、地域づくりを進めるため、支援関係者同士が学び合う」事を目的として開催しました。



I 部 手嶋雅史先生による講演

研修会一部では、愛知県障害者相談支援スーパーバイザーの手嶋雅史先生に、「暮らしの中の意思決定支援と地域づくり」をテーマに講演いただき、社会情勢を踏まえ成年後見制度や意思決定支援の仕組みづくりの背景、今後の方向性についてお話いただきました。支援者が制度まちなになっている現状を指摘され、最後に何のために仕事をしているのか、支援者への期待が語られました。以下、参加者からの感想

- 難しい話ではあったが、今後私たちが意思決定支援を実施していく為の在り方、考え方として取り入れていくべき点がいくつもあった。意思の形成、確認、実現に対する支援の判断を間違えないようにしていきたい。
(ホーム世話人)
- 制度施行から支援思考と言う考え方に共感できた。ただ、日々の現場でも寄り添う支援から、マニュアル的な支援でないと動けないスタッフが多くなってきていて、今回の事をどう伝えて行けば理解されるのか悩む。
(ホーム職員)
- 知的障害のある方、就労経験のない若年の方がた等への“意思形成”“意思確認”が出来ているかという事を、念頭に置いて日々の活動をしていきたいと思いました。制度に合わせて活動を変えるのではなく、地元の声を集めて、動きやすい仕組みを自分たちで作っていきたくと思いました。
(職業指導員)

II 部 シンポジウム

シンポジウムは、障害当事者の方お二人と、重心の方のグループホームでの生活を支える支援者の方、入所施設からホームに移行した重度の知的障害の方の生活と変化の様子を支援者の方にお話いただきました。時間の都合上、報告後に交流や深め合う事が出

プログラム

1. 講演

テーマ「暮らしの中の意思決定支援」と「地域づくり」

手嶋雅史氏 椋山女学園大学准教授

愛知県障害者相談支援スーパーバイザー

2. シンポジウム

稲木栄司氏 当事者

「ぼくのせいかつ」住み慣れた緑区 自宅で一人暮らし

梶田直美氏 当事者

「一人暮らし、地域の中で」

野澤剛氏 ぶなの森 グループホームくまげら

「重度心身障害のある方の暮らしの中の意思決定支援」

石田誠樹氏 ゆたか生活支援事業所みどり

「入所施設からホームへ Aさんらしい生活を目指して」

来ませんでした。大変貴重なお話をお聞きする事が出来ました。以下参加者からの感想

○手嶋先生の講演について		○シンポジウムについて	
とても良かった	16名		15名
良かった	13名		13名
ふつう	1名		2名
あまり良くなかった			
よくなかった			

- 当事者の方、普段現場で支援されている方から、意思決定や意思をくみ取る事の工夫について、具体的例を用いて紹介いただき、明日からの仕事に生かせると思いました。(日中支援員)
- 自分の法人以外の様子をいろいろ知る事が出来、ありがたかったです。本人さんからの支援者への配慮、支援者の寄り添いながらの丁寧な支援、いっぱい伝わってきました。(管理者)
- 重度の障害をお持ちの方の、意思決定支援についてはその方をどのくらい理解し、意思をどう引き出していくのか。支援者の力量と言うか、私たちは日々の支援の幅を広げ、努力していかなければいけないと思った。(ホーム生活支援員)
- いろいろな暮らしの場を具体的に知る事が出来ました。まさに意思形成の課題のくまげらと、みどりのホームの方の暮らしと、意思実現の稲木さん、梶田さんの暮らしは、両方とも一人一人に丁寧に向き合う事の大切さを教えられました。一人一人の自分の意思を大切にしたい支援だったと思います。(生活支援職員)
- 当事者の生の声が聞けて良かった。本人の生活や思いを発表する支援も、意思決定や意思の形成にとって重要な事だと思った。(日中活動支援者)
- 生活支援における意思確認、決定において、代弁したり観察(くみ取り)していく事の大切さを再確認できた。(相談支援員)
- 講演とも共通しますが、何を持って意思決定支援と判断するのか。話せない方が、『うん』とうなづいたから、それを望んでいるとは限らないし、笑顔で喜んでいるから良いわけでもない。支援者の思いが、決め手となってしまう場合もあつたりする。職員、支援者は日々の違いを見ながら、寄り添いながら、その方の意見を見極められるのかなと感じました。(ホーム世話人)



その他、今後の緑区の課題等

- 本人の意思決定支援と地域づくりの課題として、今回の研修で支援者が発信して地域づくりに取り組んでいくことは必要ですが、必ずしもそれは、支援者だけで行っていくものではないことだと感じました。(サービス管理責任者)
- 緑区のみというよりも、また障害者支援従事者のみというよりも、社会全体・地域全体が障害者の方々主体性や意思を尊重するような雰囲気が変わっていかないと、ただ制度だけが変わっただけに終わってしまうと思います。(コミュニティワーカー)
 - 今回の研修の講演の中にあつた「制度思考から支援思考へ」について引き続き考えていきたい。(ホーム管理者)
 - 相談支援事業所が、窓口になっていく事が多くなってくると思います。本人や家族が望むサービスを選べるように支援していく必要があると思います。(放課後デイ管理者)

